

新規就農者向けイチジク栽培講座「いちじくスクール」開校式 5期生5人が新たに入校 苗木植え付け

JA西三河は4月11日、新規就農者向けイチジク栽培講座「いちじくスクール」の開校式を開きます。当日は小牧センターでの開校式を行ったのち、吉良町地内の生産者圃場へ移動し、JAや愛知県農業改良普及課担当者から指導を受けながら、イチジク苗木の植え付け実習を行います。

今年度のいちじくスクールでは新たに5期生5人が加わり、昨年度から継続して栽培を学ぶ4期生5人と合わせ、合計10人がイチジク栽培を学びます。

■開催予定■

【日時】4月11日（木） 9:30～
【場所】JA西三河 小牧センター
（西尾市吉良町小牧梶見堂3、
TEL:0563-35-0246）

・開校式ののち、吉良町地内の生産者圃場へ移動し、イチジク苗木の植え付け実習を行います。



県職員（画面奥）の指導を受けながら、イチジク苗木を植え付ける新入生ら（2018年4月）

■いちじくスクールの概要

「いちじくスクール」は、JA西三河が主催する、露地イチジク専門の新規就農者向け栽培講座です。1年間を通して、座学研修やいちじくスクール園地での剪定・防除・収穫の実習を通してイチジク栽培を学びます。また、農地や就農資金の相談にもあわせて応じ、修了後のスムーズな就農へつないでいます。

2015年の開校以来、修了生がぞくぞくと西尾市内で本格就農。「イチジク産地・西尾」を支えています。



8月から11月にかけてほぼ毎日行われる収穫実習
受講生が交代で収穫に取り組む

※いちじくスクールの詳細については、別紙資料もあわせてご覧ください。

西尾市のイチジク生産の概要

～日本一の「西三河イチジク」ブランド～

■西三河地区は日本一のイチジク産地！

全国で約12,000トﾝが生産されているイチジク。愛知県は生産量約2,600トﾝを誇る、県単位で全国一の産地です。中でも西尾市などの西三河地区はイチジク生産の中心地です。

昭和40年代より、水田の転作作物としてイチジク栽培が本格化しました。西尾市のイチジク生産者で組織する「JA西三河いちじく部会」は、JAあいち中央・JAあいち豊田・JAあいち三河のイチジク生産部会とともに組織する「西三河いちじく部会」の一員として、全国一のブランドを確立。あわせて約700トﾝ（2018年）のイチジクを生産しています。



収穫風景
夏の収穫作業は
早朝に行われる

■西尾市のイチジク 生産概要

「JA西三河いちじく部会」では、ハウスイチジク・露地イチジクあわせて約9畧の圃場でイチジクを生産しています。

ハウスイチジクは4月上旬から8月中旬、露地イチジクは7月下旬から11月頃までと、非常に長期間にわたって収穫を行っています。露地イチジクが最盛期となる8月中下旬には、1日当たり約10,000パック（1パック350個）を収穫します。

約半数が小牧センター、残り半数が安城市にあるJAあいち経済連パッキングセンターで等階級別に選果され、主に関東・中京・北陸方面の市場へ出荷されます。



営農センターでのイチジク選果
パート選果員が品質をチェックする

【産地情報】

生産者部会の名称：JA西三河いちじく部会

部会員数：52人

栽培面積：約9畧（ハウス0.5畧 露地8.5畧）（うち成園8.8畧）

生産量：170トﾝ（ハウス28トﾝ・露地142トﾝ）

出荷時期：（ハウス）3月下旬～8月上旬、（露地）7月下旬～11月上旬 出荷ピークは8月中下旬

販売額：1億4900万円（露地・ハウス合計）

出荷先：主に中京市場・京浜市場

出荷品種：「榊井ドーフィン」

全国の出荷量：12,059トﾝ

愛知県の出荷量2,623トﾝ（全国1位）（2位和歌山県：2,298トﾝ、3位兵庫県1,635トﾝ）

西三河いちじく部会の生産量：約700トﾝ（2018年度）

データ参照：

農林水産省 平成28年産特産果樹生産動態等調査 特産果樹生産出荷実績調査 種類別栽培状況（都道府県）かんきつ類以外の果樹【落葉果樹】、愛知県西三河農林水産事務所による作成資料

露地イチジク栽培講座「いちじくスクール」 ～技術習得・就農サポート通して新規就農に導く～

■「いちじくスクール」の概要

イチジクは果樹としては珍しく、苗木の植付から2年で収穫でき、3年目には成木並みの収量を得られます。また脚立に上った作業が不要であること、果実が軽量で作業負担が軽いことなどから、新規就農者にも取り組みやすい作物です。

この特長を生かして、定年帰農者を含む新規就農希望者を取り込み、産地の維持拡大につなげようとJA西三河とJAあいち経済連が2015年度から開始した、露地イチジク専門の新規就農者向け講座が「いちじくスクール」です。座学研修やいちじくスクール園地での剪定・防除・収穫の実習を通して、1年間かけてイチジクの栽培について学びます。

JAではいちじくスクールでの研修と合わせ、就農のための農地の借受に関する相談受付、生産者部会を通じた苗木の提供、国などの制度資金を利用した就農資金の案内などを行い、スクール修了後のスムーズな就農につなげていきます。



選果・パック詰めの実習



剪定実習



雨除けハウスの自家施工研修
足場の上でハウスの鉄骨を組む（2018年8月）

■若手イチジク生産者の活発な活動

いちじくスクールでは、2015年4月の開校以来4年間で合計43人がイチジク栽培を学びました。このうち12人（栽培面積232㎡）が、西尾市のイチジク生産部会であるJA西三河いちじく部会に入会しました。この影響から、農家の高齢化が進む中でも同部会の部会員は46人（2015年度）から52人（2019年度）に増加。現在ではいちじく部会の生産者の2割以上（52人中12人）がいちじくスクールの修了生となっています。

若手生産者の増加に伴い、生産規模の拡大や新技術導入への意欲も旺盛に。JA西三河はこれに答え、スクール生や修了生などを対象とする新たな取り組みを開始しています。圃場の雨除けハウス自家施工研修や、露地イチジクと露地野菜の複合栽培提案検討といった新たな取組を次々と打ち出しています。

■露地イチジク栽培のメリット

- ①植え付け2年目から収穫でき、3年目には成木並みの売上（130万円/10a）が可能。
- ②単位面積当たりの所得が高い。
- ③栽培が軽作業で比較的簡単。脚立に上って行う作業がなく、果実が軽量で運搬も容易。
- ④気象変化に強い。収穫期間が8月から11月と長く、台風の影響などを受けてもシーズン通しての全体の収量に及ぼす影響が少ない。
- ⑤安定した需要がある。健康成分を多く含み、常食するファンを多くもつため、販売単価が景気の影響を受けにくい。
- ⑥部会に所属すれば、日本一の生産量とブランド力の「西三河いちじく」のブランドで販売が可能。他産地よりも有利な価格で販売できる。

（JAあいち経済連作成資料より）